

## NZLC Auckland Young Learner Testimonial



<語学学校クラス風景>

2010年11月より鳥羽悠平君（16歳）はNZLC Auckland Language Centreの高校進学準備英語にて約6ヶ月英語の勉強後、2011年5月より晴れてニュージーランドの名門校である、Takapuna Grammar High Schoolへの入学が決まりました。その悠平君が日本出発からこれまでのオークランドでの語学学校での生活、そして、高校進学決意についてコメントしてくれました。

**“自分の努力次第で人生変わるものなんですね！でも英語が話せないと海外留学は何も始まりません！”**

自分はニュージーランドに来る前は全くという程、英語の勉強をしておらず、到着したときは、心臓が破裂しそうでくらい緊張していたことを今でも鮮明に覚えています。ホームステイ先の家族は温かく迎え入れてくれ、いよいよ新しい世界の始まりだなと感じました。ホームステイのお母さんが色々とかのことやバスの乗り方など教えてくれましたが、正直ほんの少ししか理解できず、自分からはほとんど英語で話すことはできませんでした。それでもホームステイのお母さんは辛抱強く優しく教えてくれました。NZLC Aucklandの学校初日、ホームステイのお兄さんが学校まで連れていってくれました。オリエンテーションとテストを行い、それから、学校スタッフが学校周辺を一緒に歩いてくれ、どこでランチや買い物ができるかなど教えてくれました。そして、いよいよ午後から英語のクラスがスタートしました。

クラスメートは世界各国からの同じ位の年の人で、英語が分からない自分を色々助けてもらい、日に日にたくさんの友達を作ることができました。信頼できる友達ができると、週末や放課後も英語を使って友達と過ごす時間も長くなってきて、2-3週間後には充実した気持ちになってきました。ホームステイも最初は気を使って部屋にこもりがちでしたが、それでは駄目だ！と次第に思うようになり、積極的に一緒に買い物に行ったり、ゲームをしたりしながら、コミュニケーションが徐々に取れるようになってきました。英語力はそんなになくとも、辞書を使ったり、単語を書いたりしながら、学校で学んだ英語を使ってホームステイファミリーと会話をしているうちに、自分でも英語力が付いてきたなと思いました。

文化の違いや言葉ができないことに惑わされることはしばしばありました。シャワーの時間が限られていたり、自分の意見を伝えられず悔しい思いもした。ホストファミリーの家のルールを破って怒られたこともあります。でもこういう体験をしながら、英語も含めた色々な壁を乗り越えて人生が変わっていく実感があります。

また、最初はニュージーランドの高校に行こうかどうか迷ってましたが、生活するうちに自分に自身が持てるようになったのと、また、もっと英語を話せるようになりたい！という気持ちが芽生えてきたのと、ニュージーランドが気に入ってきて、高校に進学することを決意しました。留学を支えてくれた自分の家族、ホストファミリー、先生、スタッフの方に感謝の気持ちでいっぱいです。



<高校訪問・制服を着て>

### 日本人カウンセラーからのコメント

悠平君は、正直手を焼いた学生でしたが、その分6ヶ月で本当に大きく成長され、これから現地の高校に通われるのが本当に嬉しいです。悠平君の偉かったところは、文化やマナーの違いに直面し、自分が納得出来ない状況になったり壁にぶつかった時、担当講師や私とカウンセリングを行い、どんどん吸収し成長していったこと、また、最初は英語で大変苦戦しましたが、積極的にクラスメートとも大変仲良くなり、新しく入ってきた色々な国からのクラスメートにも、自分の経験をもとに先輩としてアドバイスをしてくれたりなど、最初来たときとは見違えるくらい大人になりました。現地の高校に行ってからきっと悠平君だったら大丈夫です。



<英語講師エレン先生と>



<オークランドの景色>



<英語レッスン風景>